地域MaaSによる持続可能な交通空白地解消プロジェクト｜WILLER株式会社

2026/3/13

目的：MaaS活用と運賃改善等による持続可能な地域交通を実現

- MaaSアプリを既存の久美浜公共ライドシェアに活用し、利用者の移動の利便性向上や運行管理システムによる事務負担の軽減を図る。さらに、地域事業者の送迎サービスとの連携（共創）に取り組むことで、公共ライドシェアにおける収支バランスの改善を促し、持続可能な地域交通モデルの構築を目指す

事業内容：距離制運賃型・地域連携型公共ライドシェアのMaaS実装と運用検証

【交通サービスの高度化】

- 既存MaaSアプリ（mobi）のマルチモーダル検索に距離制運賃型公共ライドシェアシステムを連携し、1つのアプリで公共ライドシェアの検索・予約・決済が行えるシステムを構築した
- 乗車距離に応じた運賃の算出機能を有した距離制運賃型公共ライドシェア対応システムを開発し実装した
- 交通事業者以外の多様な事業主体に対し、運用形態に応じたチケット発行・予約管理が行える連携機能を開発した

【モビリティデータの取得と活用】

- データ基盤に公共ライドシェアデータを連携し、BIツールで可視化し分析データとして活用。また、運行管理システムからの帳簿出力機能を実装した

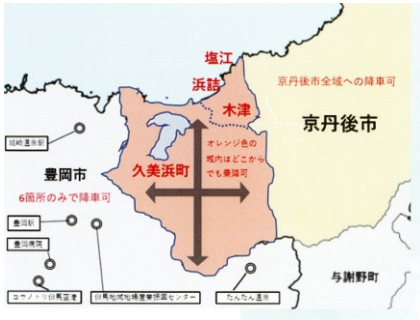
【地域交通政策等との連携】

- 実証で得たデータ活用の京丹後市の実務評価を実施し、議会報告等での活用の有効性を確認した

効果

- 課題：地域交通維持のため、収益構造の改善と移動の担い手不足の確保。加えて、運行管理に係わる業務負担の軽減。
- 効果：距離制運賃と地域連携による収支改善とリソース活用、運行実績データに基づく持続可能な交通政策の実施。取得した運行管理データの可視化や台帳抽出等の自動化による管理業務の削減

【実施エリア】



■ 乗降可能エリア

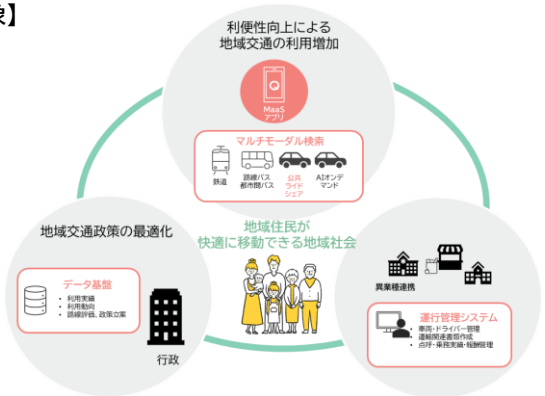
現在TANGO CREW’ Sがライドシェアを運行中のエリアが対象

- 久美浜町
- 網野町・浜詰・塩江・木津エリアの一部

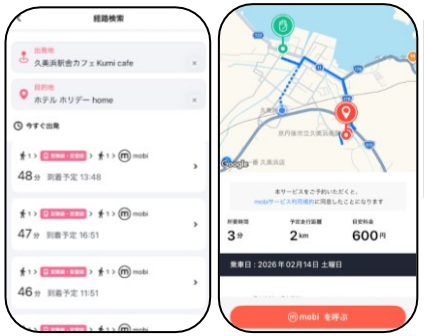
■ 降車のみ可能エリア

- 豊岡市の6か所（豊岡駅、豊岡病院、コウノトリ但馬空港、但馬地域地場産業振興センター、城崎温泉駅、たんたん温泉）、京丹後市全域

【本事業の取組の全体像】



【マルチモーダル検索画面（左）
距離制運賃ライドシェア予約画面（右）】



【BIツール】
乗降ポイントの傾向把握と需要分析



【施他業種連携ライドシェアの試乗の様子】



Copyright © 2025 by MLIT. All rights reserved.

プロジェクトの効果

課題に対する効果

#	課題	効果
1	地方部におけるAIオンデマンド交通は、運賃収入と運行経費の収支バランスが取れず、行政の補助金負担が大きいことから、新規エリアへの展開が困難。	既存MaaSアプリに距離制運賃型公共ライドシェアの経路検索と予約、決済を追加し、利用機会の創出と認知拡大を実施。MaaSアプリ対応による運営負担軽減に加え、予約システムのデータから距離制運賃型の平均単価（約2,000円/回）が、一律運賃制に比べ収益性が高いことが分かり、距離制運賃型の導入が行政の補助金負担の抑制に有効であることを確認した。
2	非交通事業者にとって、公共ライドシェアの運営に必要なドライバーの勤務シフトや免許証・車両・体調、運行状況、報酬等の管理、また、国や行政への運輸記録の報告等、交通事業者とほぼ同等の管理・報告体制を擁する必要があり、業務負担が大きい	実証運行を通じ、手書きの乗務記録のシステムへの入力や点呼情報の照合等の非効率な事務を特定。これらをシステム上で管理することで、2回発生していたシステムへの入力を1回に削減。加えて、点呼照合の自動化により、今後、運行台数増加時の業務負担の削減に有効であることが確認できた。
3	地方部ではドライバー不足を背景に、買い物や通院など生活を支える移動についても担い手が不足している	「地域連携型公共ライドシェア」として旅館と連携した公共ライドシェアの活用を実証。旅館の従業員等の移動手段を既存の公共ライドシェアが担うことで、旅館の送迎負担の軽減と従業員等の利便性向上が図れることを確認できた。公共ライドシェアの活用機会の創出により、地域の限られた担い手を有効活用するモデルを示すことができた。

KPI

【凡例】 赤字：目標達成　青字：目標未達成

#	測定項目	KPI	計測方法	計測頻度・回数	事業実施年度の目標値	最終結果	達成/未達成の原因
1	運行管理DX化によるリソース削減	運行管理にかかる削減工数	運行主体へのヒアリング		20%	現運行数は、手作業で対応可能な範囲であり、DX化による削減効果の測定は不能	現状の運行数では手作業で対応可能な業務負荷であり、具体的な工数削減の算出に至らなかった。なお、管理業務の効率化が現れる運行数は30件以上/日と定めた。
2	データ分析ツールの利用者評価	自治体職員の利用満足度	市町村への調査	年1回	アンケート回答の平均値4以上	平均値 4	BIツールを活用し、時間帯・場所別の利用実績を地図上で可視化することで住民説明や路線最適化の客観的根拠として活用できることや自動集計で行政報告の事務負担が軽減できることが評価された
3	新規登録者数	登録ユーザー数	データベースを確認		50名（10日間）	新規ユーザー登録 12件	チラシ配布によるユーザー登録の促進は、高齢者には不十分であった。なお、対面では登録の同意が得られており、今後は高齢者へのスマホ講座等を通じた丁寧な利用支援が必要
4	MaaSアプリシステムを通じた公共ライシェア利用数	乗車人数	データベースを確認		40ライド（10日間）	電話・来店予約：12件 アプリ予約　1名	電話予約に慣れた既存の公共ライドシェア利用者に対し、MaaSアプリ利用による利便性を周知しきれなかった
5	地域連携公共ライシェアの利用数	乗車人数	データベースを確認		20ライド	乗車人数：3名 （予約2件）	夕日ヶ浦温泉エリアの旅館の従業員を対象に、久美浜までの買い物での公共ライドシェアの活用を実証し、利用者から高評価を得た。 一方、春節時期の宿泊者増加による繁忙期と重なり、休暇を取得し実証に参加できる従業員は限定的であった。